

織田信長の近江侵攻と 佐々木六角氏、観音寺城

天文21年（1552年）、六角定頼の死去により子義賢が家督を継ぎました。義賢は5年後に出家して名を承禎と改め、子義治に家督を譲りましたが実権は手放していません。



観音寺城伝平井丸の城門跡

義賢の代に六角氏は京都で勢力を落とし、京極氏に替わって湖北を支配した浅井氏にも野良田の戦い（永禄3年）で敗れ、退勢は明白になりました。これに焦ったのか、永禄6年に義治は有力家臣の後藤賢豊父子を城内で殺害します。承禎との対立が遠因にあつたようです。これに反発した家臣たちは城内の自邸に火を放つて本拠へ帰り、承禎・義治父子も城を追われました。これが観音寺騒動です。重臣蒲生定秀の取りなしで承禎らは帰城できましたが、六角氏の権威は失墜。永禄10年に制定した「六角氏式目」は主従が遵守を誓う形式になっています。

翌年（1568年）、織田信長は足利義昭を将軍位につけるため、彼を奉じて上京を開始、美濃（岐阜県）から近江へ侵攻しました。六角氏にも従軍を勧めましたが、義治らはこれを拒否。信長軍は観音寺城よりさきに隣接の箕作城を攻め、一日で落城させました。これを見た六角氏父子は夜のあいだに城を脱出し、観音寺城は戦うことなく落城しました。このとき義昭は父義晴にならって桑實寺正覚院に布陣しています。

上洛を果たした信長と家臣団は近国の旧勢力との戦いに奔走し、和睦と対立を繰り返しながら勢力範囲を固めてゆきます。なかでも朝倉攻め（金ヶ崎の戦い）元亀元年（1570年）では義弟浅井長政が離反し、背後を襲われそうになったとき最大の危機でした。このとき形成された信長包囲網には逃亡した六角氏父子も加わり、甲賀を拠点にゲリラ戦を展開しています。信長勢は包囲網を粘り強く個別撃破



織山からみた安土山（安土山は当時は小中の湖などの内湖に突き出した半島だった）

して、比叡山を焼き討ち、一乗谷城の戦いで朝倉氏を、小谷城の戦いで浅井氏を撃滅、長篠の戦いで武田氏を撃破、そして越前・伊勢の一向一揆を鎮圧して、7年かけて京都を中心とする勢力圏を固めます。

天正3年（1575年）に朝廷から右近衛大将に任じられた信長は名実ともに天下人となりました。安土築城（天正4年）の前後には、明智光秀を近畿地方、羽柴秀吉を中国地方、柴田勝家を北陸地方というぐあいに諸方面へ有力家臣を派遣して攻略させ、その後の領国支配を任せました。信長はこれらを同時に動かす武力と財力を手に入れ、かつ領内の秩序を安定させることができたのです。

（滋賀県立安土城考古博物館
学芸課長 伊庭功）

台風19号の被災地、南相馬市へ市民の想いを乗せて飲料水を輸送



飲料水をトラックに積み込む職員

台風19号で断水が発生している福島県南相馬市（災害時相互応援協定都市）から要請を受け、飲料水（2リットルのペットボトル5100本）を支援するため、民間運送会社の協力を得て、10月16日、職員4人らが出発しました。心からお見舞い申しあげると共に、一日も早い復興をお祈りします。

人口と世帯 令和元年10月1日現在 ()は前月比

総数	82,129人 (-8)
男	40,360人 (-3)
女	41,769人 (-5)
世帯	33,893世帯 (+42)

※外国人住民(41カ国・地域/1,518人)を含みます。